

R P P Cメール

リサイクルポート推進協議会

第582号（平成27年6月10日発行）

【今週号の主な内容】

■ 《今週の報道発表》

★平成27年度低炭素型3R技術・システム実証事業の公募について（お知らせ）

■ 《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 平成27年度定時総会のご報告及び年会費納入のお願い
2. 汚染土壌事業化PTの次回WGの開催について

■ 《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. リサイクルポート推進協議会、27年度総会開催
2. 環境省、平成27年度海外展開事業化促進事業に15件を選定
3. 環境省・経産省、自動車リサイクル専門委員会合同会議（第41回）を開催
4. 平成27年度低炭素型3R技術・システム実証事業の公募

《今週の報道発表》

平成27年度低炭素型3R技術・システム実証事業の公募について（お知らせ）

詳細については、下記にてご確認ください。

<http://www.env.go.jp/press/101065.html>

【環境省 H27年6月1日】

《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 平成27年度定時総会のご報告及び年会費納入のお願い

6月3日（水）、第一ホテル東京シーフォートにおきまして、平成27年度定時総会を開催し、会員総数172団体の過半数の賛同を得て、すべて議案が滞りなく可決されました。

総会開催にご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご指導・ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

（総会参加者数：109名、交流会参加者数：78名（事務局を除く））

また、会員のみなまさには新年度の年会費お振込のお願いを順次送付しております。

なお、総会ご欠席の団体の方には総会資料を同封しております。

納入期限は7月末ですので、何卒、宜しく願い申し上げます。

2. 汚染土壌事業化PTの次回WGの開催について

下記日時にて開催予定となっておりますのでご確認ください。

記

日 時：平成 27 年 6 月 30 日（火）

13：30～14：30 WG②, ⑥

14：30～15：30 WG③・④

（今回はWG①はありません）

場 所：みなと総研 3 階会議室

【事務局】

=====

1. リサイクルポート推進協議会、27 年度総会開催

リサイクルポート推進協議会（会長・米田徹糸魚川市長）は 6 月 3 日、東京都品川区の第一ホテル東京シーフォートにおいて、平成 27 年度総会を開催した。役員及び運営委員の改選、新規会員の承認、26 年度活動・決算報告、ならびに 27 年度活動計画・歳入歳出予算（案）等、所定議案について審議しいずれも原案通り了承した。米田会長を引き続き選任したほか、新規会員として 7 社の入会が承認され、会員数は 172 団体に増えた。

総会開会にあたって米田会長は、「東日本大震災に際しては、『リサイクルポートを活用した災害廃棄物広域処理』についての冊子を作成し、廃棄物の広域処理に利用して来た。また今後の巨大地震の発生に備え、災害廃棄物の広域輸送体制についても、民間連携も含め協力体制の構築を検討している。更に環境省と国交省との連携事業としての『モーダルシフト・輸送効率化による低炭素型静脈物流促進事業』については、円滑な海上輸送静脈物流事業の活性化に向け取組が進みつつある。このほか港湾・空港整備におけるリサイクルガイドラインを活用したリサイクル製品の利用促進や今後の汚染土壌の適正管理に向けたビジネス活動についても引き続き推進して行く」と挨拶した。

来賓として菊地身智雄国土交通省大臣官房技術参事官は「当協議会は、港湾を核とした静脈物流システムの事業化、リサイクル製品の開発・普及、情報発信など、各部会のメンバーを中心として大変精力的に取組まれており、心から敬意を表したい。大規模災害時における災害廃棄物の広域処理、更には汚染土壌への対応など、当協議会加盟各社のノウハウに期待するところが大きい。国交省では当協議会の取組を今後とも全力でサポートしてまいりたい」と挨拶した。

【港湾空港タイムス】

2. 環境省、平成 27 年度海外展開事業化促進事業に 15 件を選定

環境省は、「平成 27 年度我が国循環産業海外展開事業化促進事業として 15 件を選定した、と発表した。

環境省は 23 年度より「日系静脈産業メジャーの育成・海外展開促進事業」を開始し、循環産業の育成・海外展開促進に取り組んできている。平成 25 年度からは「我が国循環産業の戦略的国際展開・育成事業」と名を改め、今まで実施してきた 3R・廃棄物処理に係る二国間協力と有

機的に結びつけ、我が国の優れたインフラ関連産業の一つとして循環産業の海外展開を積極的に促進している。

「循環産業海外展開事業化促進事業」は、この事業の一環として、我が国の循環産業による廃棄物処理・リサイクル分野における具体的な海外展開を計画する事業について、実現可能性調査等を実施するもの。同業務では、海外展開に向けた事業の進捗度合により区分された3種類の調査業務を募集し27年2月26日から3月25日まで、本支援事業の支援対象事業を公募したところ、24件の応募がありこの中から対象事業15件を選定した。

①事業環境基礎調査＝野村興産、日本環境設計、飯室商店、星尊、日揮、日立造船、DOWAエコシステム。②実現可能性調査＝ユーパーツ、JFE環境、大谷化学工業、市川環境エンジニアリング、アマタ持続可能経済研究所、新日鉄住金エンジニアリング。③事業案件形成調査＝市川環境エンジニアリング、アマタ。

【港湾空港タイムス】

3. 環境省・経産省、自動車リサイクル専門委員会合同会議（第41回）を開催

環境省、経産省は産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルWG中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会合同会議（第41回）を6月19日に開催する。議事は報告書（素案）について。一般聴講可能。場所は大手町サンスカイルーム E室（東京都千代田区大手町2丁目6番1号朝日生命大手町ビル24F）

傍聴希望者は、6月16日（火）12時までに、環境省HPを通じて同会議の開催案内ページから予約が必要。

【港湾空港タイムス】

4. 平成27年度低炭素型3R技術・システム実証事業の公募

環境省は6月1日付で平成27年度低炭素型3R技術・システム実証事業の公募を開始した。環境省では平成26年度より、循環型社会と低炭素社会の統合的実現に向けて、CO2排出削減が期待できる「低炭素型3R技術・システム」の普及拡大に向けて有効性を検証することを目的とした実証事業を行っている。今般、素材・製品等の3Rの推進に対し、ボトルネックに相当するような具体的課題を設定し、その解決に向けた実証的な取組を行う事業者を支援するための公募を開始した。

対象となる事業は、以下のテーマに関連する取組

①素材（例：ガラス、プラスチック）に注目した製品横断的なリサイクル・再生材利用の促進、②新製品・新素材（例：リチウムイオン電池、炭素繊維強化プラスチック（CFRP）、太陽光発電システム）のリユース・リサイクルの促進、③既存のリサイクルシステム（例：家電リサイクル、食品リサイクル）における処理工程の効率化・省エネ化、④素材（例：金属資源、プラスチック）の高度選別・アップグレードリサイクル・水平リサイクルの促進、⑤製品設計の工夫による製品の長寿命化・省資源化・解体性向上の促進（例：自動車部品の解体

性向上によるリユースの促進)。

事業費は1件あたり上限1億円(税込)とし、採択件数は8件程度、総額4億2千万円(税込)程度。なお、1件あたりの平均的な事業費は3千万円～6千万円を予定。

【港湾空港タイムス】

#####

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金(株)

部会員：山崎 和宣 五洋建設(株)

木村 竜也 東京都

梅木 重光 (株)酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鋳(株)

新谷 聡 りんかい日産建設(株)

リサイクルポート推進協議会事務局 一般財団法人みなと総合研究財団(内)

担当：本野、井手、榎並 URL：www.rppc.jp E-mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp

※会員主催や会員に関係した催し物(セミナーなど)の情報がありましたらご連絡下さい。

開催案内等の情報をメールマガジンで配信いたします。

※メールマガジンに対する意見、要望がありましたらご連絡下さい。

#####